

## 3. 診 療 部

---

### 目 次

糖尿病内科 .....	21
脳神経内科 .....	22
消化器内科 .....	24
循環器内科 .....	26
外科 .....	27
脳神経外科 .....	28
整形外科 .....	29
眼科 .....	30
泌尿器科 .....	31
麻酔科 .....	32

# 糖 尿 病 内 科

## (1) スタッフ

医員（講師）	大西 峰樹
医員（助教）	森本 貴子
医員（非常勤）	宮脇 正博、中森 万由子

（令和6年3月31日現在）

## (2) 特徴

糖尿病内科は、常勤医2名および非常勤医2名による週4回の専門外来で、糖尿病を中心に脂質異常症、高尿酸血症などの代謝性疾患の診断・治療を行っている。また常勤医による、糖尿病コントロール入院も行っている。

当科ではチーム医療を重視しており、現在、当院糖尿病専門チームには日本糖尿病療養指導士が3名在籍し、栄養指導、フットケアなど、チームとして糖尿病患者さんへのケアに取り組んでいる。

例年は月に1回、主に外来通院の患者様を対象に、糖尿病の病態、食事・運動・薬物治療その他に関する知識の教育を目的とした糖尿病教室を行っているが、コロナ禍は中止していた。2023年度からは徐々に再開し、糖尿病に関する知識を広めることで、慢性的に続く高血糖や代謝異常による網膜症、腎症、神経障害、細小血管障害、皮膚感染などの合併症を予防し、患者様の生活の質（QOL）を保つことに貢献していきたいと考えている。

## (3) 診療実績

### <外来診療実績>

・フットケア外来受診数	51件
・CGM 検査件数	5件

### <入院診療実績>

・糖尿病コントロール入院	7件
--------------	----

### <外来糖尿病教室実績>

・2件
-----

# 脳 神 経 内 科

## (1) スタッフ

特務講師 宇野田 喜一  
医員（非常勤）太田 真

（令和6年3月31日現在）

## (2) 特徴

「脳神経内科」専門施設として近畿厚生局から認可を受けており、対象疾患としては、脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経難病、神経免疫疾患（重症筋無力症、多発性筋炎、ギラン・バレー症候群など）、片頭痛などです。基本方針や特色地としては神経難病から頭痛まで、幅広く神経内科疾患に対応しております。また、脳神経外科、整形外科およびリハビリテーション科などとも密に連携をとりながら診療を行っております。

## (3) 入院診療実績

ICD 病名	2021年	2022年	2023年
パーキンソン病関連疾患	51件	8件	10件
脳血管疾患	68件	17件	20件
神経系の変性疾患、詳細不明	9件	5件	0件
脊髄性筋萎縮症および ALS	18件	7件	7件
てんかん	5件	5件	3件
炎症性多発（性）ニューロパチ<シ>ー	1件	2件	1件
他に分類されるその他の疾患の認知症	3件	4件	0件
その他のミオパチ<シ>ー	0件	2件	0件
重症筋無力症	6件	4件	1件
アルツハイマー病の認知症	3件	0件	0件
一過性脳虚血発作および関連症候群	2件	0件	0件
多系統変性（症）脊髄小脳変性症	9件	4件	3件
髄膜炎	1件	0件	0件
多発（性）ニューロパチ<シ>ー CIDP	0件	0件	1件
その他の脳炎、脊髄炎および脳脊髄炎	3件	3件	0件
その他の舞踏病	2件	0件	0件
限局性脳萎縮（症）	9件	0件	0件
細菌性髄膜炎、他に分類されないもの	1件	0件	0件
脳実質外動脈の閉塞および狭窄	1件	0件	2件

ICD 病名	2021年	2022年	2023年
片頭痛	0件	1件	2件
IgA 血管炎	0件	0件	1件
その他のスフィンゴリピドーシス	0件	0件	2件
神経根および神経叢の障害	0件	0件	3件
脳腫瘍	1件	0件	0件
神経系その他の障害	0件	0件	1件
総計	193件	62件	57件

2023年度その他の入院診療実績

Covid-19	11件
肺炎、肺気腫	10件
尿路疾患	6件
その他の感染症	6件
前庭機能障害	4件
脱水症	3件
総計	40件

# 消化器内科

## (1) スタッフ

内科統括部長（特務教授） 瀧井 道明

医員（特務助教） 勘代 直志

医員（非常勤） 大坂 直文、箱田 明俊、森 洋介、角埜 徹、坂口 奈々子

（令和6年3月31日現在）

## (2) 特徴

- ・消化器疾患は対象臓器が広く、腹部症状も多様で画像診断の占める割合が高いため、専門医による迅速な画像検査体制を整備している。高槻市胃がん内視鏡検診の対象者を広く受け付けている。大腸がん検診（便潜血反応）で要精密検査判定の方は、紹介を頂ければ早急に大腸内視鏡検査を予約、施行している。
- ・当科は大阪医科薬科大学病院消化器内科との連携体制が整備されており、当院で診断・治療が困難と考えられる場合には、迅速に大阪医科薬科大学病院消化器内科に紹介し対応している。例えば、総胆管結石などによる閉塞性黄疸、急性胆管炎に対しては、早急に大阪医科薬科大学病院消化器内科胆膵グループに紹介して、内視鏡的胆汁ドレナージなどの処置を施行してもらっている。また、膵管内乳頭粘液性腫瘍などで精査を要する場合にも、大阪医科薬科大学病院消化器内科胆膵グループに紹介して、超音波内視鏡や内視鏡的逆行性膵胆管造影などの精密検査を依頼することが可能である。
- ・入院患者では、言語聴覚士（ST）による嚥下機能評価、栄養サポートチーム（NST）による栄養状態評価を積極的に行った上で、病態に応じた適切な栄養療法の導入に努めている。高度の嚥下摂食障害があり経鼻胃管栄養が長期間に及ぶ患者には、経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を施行している。高齢者で診断困難な急性腹症の症例に対しても、当院外科に迅速に相談可能な体制を整えている。また、肝硬変などによる難治性腹水に対しては、他科にコンサルトして、適応があれば腹水濾過濃縮再静注法（CART）を施行し、高度黄疸に対してはビリルビン吸着療法も施行可能である。
- ・外来診療は専門分野に応じて計4名の医師により行っている。薬物治療として、ヘリコバクター・ピロリ感染性胃炎に対する除菌療法、C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリーの経口抗ウイルス剤治療、B型慢性肝炎に対する経口核酸アナログ製剤治療なども行っている。
- ・消化器疾患が疑われる高齢の患者で、外来通院での検査が困難な場合には、短期間の検査入院も行っている。

### (3) 診療実績

<主な検査・処置件数>

	2021年度	2022年度	2023年度
1) 上部消化管内視鏡検査総数	633件	623件	629件
・高槻市胃がん内視鏡検診	45件	43件	43件
・経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)	22件	12件	15件
・内視鏡的止血術	6件	7件	4件
2) 大腸内視鏡検査総数	288件	275件	253件
・ポリペクトミー	141件	148件	229件
・EMR	50件	43件	82件
3) 消化管造影検査総数	25件	25件	22件
・上部消化管造影検査	12件	12件	17件
・注腸造影・小腸造影検査	5件	6件	2件
・イレウス管挿入・造影	8件	7件	3件
4) 腹部超音波検査	378件	423件	421件

### (4) 今後の目標

- ・機能性ディスペプシアや慢性便秘症をはじめとして、少しでも腹部症状・不定愁訴のある患者、消化器疾患を心配されている患者を広く受け入れていく。
- ・検査・処置の件数の増加のみならず、大学付設の病院として診療の質的な向上を目標とする。当院外科や大阪医科薬科大学病院消化器内科との連携をさらに強化して、常にベストな治療方針を選択できるように努めていく。すなわち、地域医療に根ざしながらも地域医療の高質化を目標としていく。
- ・高齢の入院患者では、消化器疾患のみならず慢性疾患が複合的に併存していることが多く、長期の臥床によりADLが低下しやすい状況にある。そこで、早期にリハビリテーションを開始し、栄養療法を積極的に導入するなど、消化器疾患を中心とした全人的な総合内科診療を目標としていく。
- ・地域包括ケアシステムに基づいて、高齢の入院患者が退院後に自宅療養、在宅復帰できるように機能回復を目指せるような診療体制を整備していく。

# 循環器内科

## (1) スタッフ

医員 渡辺智彦 十倉大輔 谷口洋樹

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

循環器疾患全般に対応する。外来および入院診療をはじめとし、他科とも連携を図り診療に当たっている。大阪医科薬科大学循環器内科から常勤医が派遣されており、外来診療、ペースメーカー外来、心エコー検査、エルゴメーター負荷心電図、CT検査、また当直業務の一部に携わっている。

## (3) 診療実績

- ・外来診療では、内科外来、循環器内科紹介診、ペースメーカー外来、術前外来を行っている。
- ・入院診療では、心不全、不整脈、虚血性心疾患等を対象としている。
- ・外来検査では、心電図、ABI、心エコー、ホルター心電図、冠動脈CT、エルゴメーター負荷心電図が施行可能である。

(心エコー：622件、ホルター心電図：46件)

- ・入院検査では、心臓カテーテル検査(33件)を行っている。
- ・治療として、一時的ペースメーカー留置術を行っている。

# 外科

## (1) スタッフ

部長 出原 啓介  
医師 千福 貞勝

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

一般・消化器外科、乳腺外科を担当する常勤医師2名及び非常勤医師1名の合計3名で診療を行っている。乳腺（岩本充彦医師）外来を行っている。

外科では、一般・消化器外科（大腸癌、胆石、ヘルニア、痔核、虫垂炎、ポート造設など）の手術を行っている。また、化学療法、終末期医療も行い、大阪医科薬科大学形成外科医師による褥瘡回診、WOC Nrs、当院外科医師による褥瘡予防回診にて褥瘡の新規発生予防および治療に取り組んでいる。そのほか、本院もしくは他院にて手術を受けた患者さんの術後リハビリおよび在宅復帰までの支援や療養環境の提供も行っている。

## (3) 診療実績

<手術室実績>

	2021年度	2022年度	2023年度
胃悪性腫瘍手術	3件	1件	0件
大腸悪性腫瘍手術	11件	16件	9件
大腸良性疾患手術（捻転、人工肛門造設、閉鎖）	15件	6件	4件
胆嚢炎、胆嚢内結石、総胆管結石症手術	30件	18件	7件
ヘルニア手術（鼠経・臍・腹壁）	23件	45件	25件
肛門手術	7件	7件	8件
中心静脈ポート手術	30件	8件	16件
虫垂炎手術	8件	4件	2件
その他（体表手術など）	34件	8件	13件
計	170件	113件	84件

手術は基本的に腹腔鏡下手術にて施行している。

# 脳 神 経 外 科

## (1) 特徴

常勤医不在となったため、外来診療のみとなっている。外来診療時や他科で入院中の患者さんで緊急性が高いと考えられる場合には速やかに CT、MRI を実施し、場合によっては主に大阪医科薬科大学病院へ転送を行っている。

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

# 整 形 外 科

## (1) スタッフ

副院長 金 明博  
医員 中野敦之、齋藤敦徳  
非常勤医師 3名

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

外傷、慢性疾患に関わらず、整形外科全般に渡る診療を行っている。中でも脊椎や関節の慢性疾患、四肢の骨折、外傷を専門分野としており、脊椎固定術や人工関節置換置換術、観血的骨接合術などの手術療法を積極的に実施している。

## (3) 診療実績

手術室手術件数 324件

主な術式	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
観血的骨接合術	68件	43件	62件	74件
脊椎手術	32件	77件	123件	157件
人工関節手術	26件	19件	26件	27件
その他	19件	46件	42件	66件

# 眼

# 科

## (1) スタッフ

医員	小寫 祥太
医員	吉岡 千紗
医員 (非常勤)	舟橋 順子
医員 (非常勤)	佐藤 孝樹

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

当院眼科では、月曜日から金曜日の午前中に眼科全般の外来診療にあたっており、白内障、網膜疾患、緑内障など多様な疾患の診察を行なっている。

## (3) 診療実績

2023年度は白内障手術を105件施行している。白内障手術は日帰り・1泊2日に対応しており、手術後の生活についても時間をかけて丁寧に説明し、患者さんや家族さんの不安を少しでも軽減できるように心がけている。

## (4) 今後の目標

白内障手術をはじめとした当院で可能な治療を継続して、少しでも多くの患者さんのQOV (Quality of Vision) 向上のため努力していきたいと考えている。

# 泌 尿 器 科

## (1) スタッフ

医員 高井 朋聡、堤 岳之

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

- ・泌尿器科は、小児から成人、高齢者にいたるまでの泌尿器疾患（夜尿症、停留精巣など）、尿路、性器の各種がん（膀胱がん、前立腺がん、腎がん、精巣がんなど）、尿路結石症、前立腺肥大症、尿失禁、尿路感染症（腎盂腎炎、膀胱炎など）、性感染症（尿道炎）などの泌尿器科疾患の全般について診療・治療を行っている。過活動膀胱、神経因性膀胱、尿路結石、悪性腫瘍などの治療を行っている。
- ・PSA 検診異常（4.0ng/ml 以上）、積極的に前立腺生検、膀胱鏡検査、画像検査など行い精査加療を行っている。

## (3) 手術室手術件数

手術名称	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経尿道的尿管ステント留置術	32	17	23	2
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	8	1	1	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）	10	10	6	8
内シャント設置術	9	7	1	1
経尿道的尿管ステント抜去術	1	0	2	0
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	0	2	3	5
血管移植術	3	0	0	6
腎（尿管）悪性腫瘍手術	2	0	0	0
その他	8	1	0	2
合計	37	38	36	27

# 麻 醉 科

## (1) スタッフ

麻醉科部長（特務准教授） 辰巳 真一

（令和6年3月31日現在）

## (2) 特徴

麻醉科は、常勤医師1名、非常勤医師1名の2名体制で、平成28年4月に診療科として設置された。主に手術麻酔を担当している。

## (3) 手術室手術実績

	2021年度 実績（件）	2022年度月実績（件）	2023年度月実績（件）
全身麻酔（吸入）	276	295	272
全身麻酔（TIVA）	45	34	40
鎮静	35	51	73
脊髄くも膜下麻酔	11	13	11
合計	367	393	396

## 4. 看護部

---

### 目次

看護部 .....	33
南2階病棟（一般急性期外科病棟） .....	39
北2階病棟（一般急性期内科病棟） .....	41
南3階西病棟（地域包括ケア病棟） .....	43
南3階東病棟（医療療養病棟） .....	45
北3階病棟（回復期リハビリテーション病棟） .....	47
外来 .....	49
手術室・中央材料室 .....	51
血液浄化センター .....	52

# 看 護 部

## (1) スタッフ

- ・看護部長 松本 加奈
- ・看護副部長 愛場 佐緒理
- ・看護師長 檜木 淑恵

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

[看護部基本方針]

私たちは、一人ひとりの患者さんの権利を尊重し、専門知識と技術・おもいやりのある看護を提供します

[看護部重点目標 項目詳細]

1. 安全・安心なエビデンスに基づく質の高い医療・看護の提供
  - 1) 温かい病院・「おもいやり・つよさ・あたたかさ」のある患者中心の看護の追求
  - 2) 固定チームナーシング看護提供体制の強化・受け持ち看護師の役割発揮
  - 3) リスク感性を高め、転倒・転落、患者誤認、薬剤関連インシデント・アクシデント件数の減少
  - 4) 感染対策強化継続によるクラスターの防止 (COVID・疥癬)
  - 5) 専門看護師・認定看護師活用により、倫理的視点を重視した認知症看護の質向上
2. 一人ひとりを尊重した働き続けられる職場環境づくり
  - 1) 大阪医科薬科大学病院・訪問看護ステーションとの連携を強化し、人材育成の充実を図る
  - 2) 一人ひとりの力が発揮できる目標管理とSSDの実践
  - 3) 労働環境の改善
3. 堅実な経営への積極的参加
  - 1) ケアミックス型病院として効果的・効率的な病床管理 (実績)
  - 2) 施設基準算定要件の堅持および見直し
  - 3) 支出抑制への貢献

### (3) 活動内容と評価

#### [職員構成]

##### 1. 看護職員

	総数	常勤	非常勤
看護師	159名	135名	21名
准看護師	10名	5名	5名
看護補助者	29名	13名	16名
看護事務（看護補助者）	7名	5名	2名
計	205名	158名	44名

##### 2. 採用者

看護師（新人）	14名
看護師（中途）	10名
大学病院からの異動者	2名
看護補助者	5名

##### 3. 離職率

看護師（新人）	7.4%
看護師（准看護師を含む）	15.9%
看護補助員（助手、看護事務含む）	6.1%

#### [資格取得]

認定看護管理者研修ファーストレベル	0名
認定看護管理者研修セカンドレベル	1名
特定行為 外科パッケージ	1名

#### [教育内容]

2023年度 看護部教育実績

院外研修

大阪府看護協会短期研修

月	研修内容	参加人数
6月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（講義・演習）	1名
	今日から実践できる褥瘡ケア	1名
	新人看護職員教育担当者研修	1名
7月	高齢者の特性を踏まえたエンド・オブ・ライフ・ケア	1名
	摂食・嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ	2名
	看護職の処遇改善（賃金モデル導入）に関する研修	1名
	大阪府看護職員認知症対応力向上研修	1名

月	研修内容	参加人数
8月	【診療報酬に関連した研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2名
	【診療報酬に関連した研修】 糖尿病重症化予防フットケア研修	1名
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（講義・演習）	5名
	実践に活かす輸液管理の基礎知識～安全に実施するために看護師が知っておくべきこと～	3名
	今日から実践できる褥瘡ケア	1名
9月	【診療報酬に関連した研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2名
	災害看護における初期医療支援活動	1名
	チームで取り組む医療安全～やってみよう！ TeamSTEPPS～	1名
	多職種協働とコンフリクトマネジメント～組織内のアサーティブなコミュニケーションに向けて～	1名
	がん患者の症状緩和を図る看護	1名
	医療安全管理者養成研修	2名
	一般病棟において、予兆をとらえて急変を防ぐ観察と看護のポイント	5名
	みんなで考える看護倫理：アドバンス	1名
	危険予知トレーニング	1名
	今すぐ使えるフレイル予防	5名
	ACPに基づいた穏やかでその人らしい最期を見守る看取りのケア	1名
	高齢者の「食」を考える	4名
	ワーク・エンゲイジメント 健康にいきいき働く！活躍している看護管理者へ	1名
【サードレベル公開講座】 組織デザインと組織運営：経営者に求められる役割と必要な能力	2名	
11月	看護の専門性を発揮しつつ、多職種連携ですすめるタスク・シフト/シェア	1名
	看護職の処遇改善（賃金モデル導入）に関する研修	1名
	医療安全の基本と医療事故防止行動	2名
	【診療報酬に関連した研修】 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	3名
	糖尿病療養指導の実践的知識（初級編）	1名
	大阪府看護職員認知症対応力向上研修	1名
	入退院支援強化研修	1名
	認知症患者のケア～認知症患者が安心して医療を受けられるケアを考える～	1名
頑張る看護職のストレス対処法～アンガーマネジメントでストレス軽減～	2名	
12月	看護に活かす臨床推論	1名
	【ファーストレベル公開講座】 看護チームマネジメント：チームマネジメント、看護提供方式	1名
	災害支援ナース養成研修	1名
	慢性心不全患者の療養支援	2名
	【診療報酬に関連した研修】 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	3名

月	研修内容	参加人数
1月	看護記録のあり方を学ぶ	2名
	看護管理に大切な人材育成とチームマネジメント	1名
	【ファーストレベル公開講座】 労務管理の基礎知識	1名
	概念化スキル（コンセプチュアルスキル）で問題解決・人材育成	
	摂食・嚥下障害のある患者看護のアドバンスト	1名
2月	看護チームにおけるリーダーシップ	1名
	看護管理に大切な人材育成とチームマネジメン	1名
	人工呼吸器ケアと呼吸アセスメントスキル～基礎から学び苦手を克服～	3名
	能登地震災害支援ナース活動報告会	2名
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（講義・演習）	
3月	「急変時対応～看護職として知っておきたい最新のBLS～」	1名

## 2) 院内研修

### 【ラダーⅠ】 新人看護師研修

月	研修テーマ
4月	医療安全のための基礎知識Ⅰ
	感染対策についての基礎知識
	社会人基礎力について
	職業人としての日常生活上の注意点
	電子カルテと看護記録Ⅰ「看護記録の基本」
	看護技術研修Ⅰ「基本的な看護技術を学ぶ」
	ストップ！感染 講義・演習
	メンタルサポート
「夜勤を乗り切ろう」夜勤についてのガイダンス	
5月	医療安全のための基礎知識Ⅱ - ① ～薬剤師に学ぶ安全な薬剤管理・与薬のポイント～
	医療安全のための基礎知識Ⅲ ～アナフィラキシーについて～
	スキルアップ研修 5 「グリーンケア」「エンゼルケア」
	スキルアップ研修「BLS」
6月	「いきいきナースを目指して！」Part1
	医療安全のための基礎知識Ⅳ ～インスリン製剤について～
	「倫理的感受性を高めよう！」～事例を通して学ぶ～
7月	医療安全のための基礎知識（安全な輸血療法）
9月	スキルアップ研修 6 「膀胱内留置カテーテル挿入」
10月	「いきいきナースを目指して！」Part2
	スキルアップ研修 7 「気管内挿管介助」
11月	医療安全のための基礎知識Ⅱ - ② ～薬剤師に学ぶ安全な薬剤管理・与薬のポイント～

月	研修テーマ
12月	スキルアップ研修 8 「呼吸器管理」
2月	年間評価「看護を語ろう！ -自己評価と今後の課題-

#### 【ラダーⅡ】 2年目看護師研修

月	研修テーマ
7月	ケアの中の倫理的問題に気づく
10月	看護実践リフレクション
11月	ステップアップ！救急看護
12月	訪問看護ステーション研修（1日体験研修）

#### [実習受け入れ]

学校名	学生数
大阪医科薬科大学看護学部 広域統合看護学実習（慢性看護学領域）	2名
大阪医科薬科大学看護学部 広域統合看護学実習（老年看護学領域）	8名
大阪医科薬科大学看護学部（老年看護学Ⅱ）多職種連携実習	20名
大阪医科薬科大学看護学部（老年看護学Ⅱ）看護展開実習	55名
藍野大学医療保健学部看護学科（老年看護学）	12名
藍野大学短期大学部（統合実習）	10名
淀川区医師会看護専門学校（老年看護学）	17名
大阪府病院協会看護専門学校（看護管理）	14名
大阪府病院協会看護専門学校（老年実習）	4名
大阪府病院協会看護専門学校（成人実習）	4名
合計	146名

#### （4）今年度の重点目標 評価及び課題

病床管理 実績

病床稼働率74.7%・病床回転率 平均1.6回転・平均在院日数16.0日（急性期）

入院述べ患者数4811人/年・外来述べ患者数52,968人/年

手術件数41件/月（513件/年）

ケアミックスの機能を発揮し、病床管理を行ったが、新入院患者の獲得、救急の受け入れなど医師による診療部門との連携に課題が残った。急性期入院料および地域包括ケア病棟入院料算定要件である重症度、医療・看護必要度はクリアしたが、次年度診療報酬改定による項目見直しのシミュレーションでは、算定が危うい状態である。特に内科病棟の重症度が低く、外科病棟の手術件数も前年度から減少しており、手術件数を増加するなどの対応が喫緊の課題である。稼働率を上昇させると平均在院日数が延長する傾向もあり、看護師の役割を明確にし、多職種と連携した退院支援を強化する必要がある。

機能に応じた病床管理を行うことで、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の算定要件である在宅復帰率、院内転棟率の要件はクリアできた。また、療養病棟の算定要件である医療区分、ADL区分もクリアでき、夜間看護配置算定も堅持できた。

救急受入れ、手術数、特殊検査、透析件数の増加は、組織的に取組みを強化する必要がある。診療部門はもとより地域連携室、医事課、リハビリ、検査部門横断的なプロジェクトによる病床機能変更等、経営改善の抜本的な戦略立案が課題である。

新卒看護師は1名退職者があった。大阪府平均新人離職率13.1%は大きく下回っているが、今後も新卒看護師に適切な支援ができる教育環境を整えていく。職員全体、正規職員の離職率は昨年度より上昇しているが、大阪府平均正職離職率14.3%であり下回っている。退職理由は転職、転居（結婚含む）などで昨年度と同様であった。人間関係などの理由について、退職希望者から話を聞き改善を図るなど、働き続けられる職場環境の整備の継続が必要である。看護補助員の正職離職は0%、補助員の離職は全国的にも高く、次年度診療報酬改定要件に補助員の定着が重視されることもあり働く環境づくりを継続する。

教育では、11月より1年計画で、大学病院看護部との人事交流として、キャリアプラクティス研修を実施。大学病院と三島南病院から各2名（当院ラダーⅡ2名、大学ラダーⅡ1名、Ⅳ1名）大学と連携し研修計画を評価しながら研修中である。次年度も引き続き研修支援を行う。

認知症看護認定看護師教育課程を1名修了した。認知症ケア研修は7名修了し、各部署に7名以上の配置ができた。また次年度キャリアサポートセンターの老人看護専門看護師が当院での活動を計画している。次年度にむけて、認知症高齢患者の看護の質向上を図っていく。

## 南 2 階病棟（一般急性期外科病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 10：1（2交代勤務）
- 2) 看護師（常勤） 24名、（非常勤） 1名  
准看護師（常勤） 1名  
看護補助者（常勤） 4名、（非常勤） 2名  
看護事務者 1名  
ケアアシスタント 2名

合計 35名（令和6年3月31日現在）

### （2）特徴

病床数44床の一般・急性期外科病棟で診療科は外科・整形外科・泌尿器科となっている。主な手術として、外科では、単径ヘルニア、ポート造設術等、整形外科は、人工股関節置換術、観血的骨接合術をはじめ脊椎手術等を幅広く行っている。現在、病床稼働率94%を目標にケアミックス型病院の特色を活かした病床管理を行い、個々の患者に合わせた術前術後のケアや支援を行い、患者が安心して治療を受け、早期に社会復帰できるようケアを提供している。また、高齢（高槻市の高齢化12.2%、65歳以上35.9%）で手術を受ける患者も多く、入院時から地域医療連携室と情報の共有化、多職種との連携を図り、在宅療養や社会復帰を想定した退院指導を行い早期退院に向けた取り組みを行っている。

### （3）活動内容と評価

- 1) ケアミックス病院の中の急性期病棟として、手術を受ける患者の術前術後の全身管理や日常生活援助を中心とした看護ケア、緊急入院の受け入れ、OMPUからの患者の受け入れ、OMPUへの患者の転送などの急性期の対応を行った。同時に入院時より多職種で計画的な退院支援を行い、在院日数の短縮と病床の有効利用を常に視野に入れたベッドコントロールを行った。
- 2) 迅速な情報共有・問題解決を目標に、常に「患者さんにとっての安全、安心とは何か」という視点で毎朝の申し送りや、ケアカンファレンスを行いケアの見直しを行った。問題発生時は速やかにカンファレンスを実施し、同様の事例が起これないための現状分析と対応策の改善を行い、安全に対する意識を高めた。
- 3) COVID-19 感染が5類扱いとなったが、季節により感染者が増加することも考え、感染対策として、ケアの内容に応じた個人防護具の適正使用や正しいタイミングでの手指消毒の徹底に努め、引き続き、スタッフ全員が感染対策への高い意識を持って取り組んだ。また、安全な勤務体制が維持できるように公私共に医療従事者としての自覚を持った行動を遂行した。
- 4) COVID-19 感染対策緩和により、対面での院内研修・院外研修も徐々に増え、スタッフ個人の役割やラダーレベルに合わせた内容の研修や学会に1人1回以上参加し、自己研鑽の形をとり知

識・技術の向上やケアの質の見直しを行った。

#### (4) 今後の目標

診療科、疾患が多岐にわたっており、個別性に応じた高度な看護ケアを求められている。看護の質向上のため各々の倫理観や知識・技術の習得に努め、患者に安心し安全な入院生活を送って頂けるよう努めていく。また、受け持ち看護師の退院支援の役割についての意識を強化し、患者・家族の望む場所に退院できるようスムーズな退院支援に取り組んでいく。患者家族及びスタッフ一人ひとりを大切にされた温かい看護のできるスタッフの育成に努めたい。

## 北 2 階病棟（一般急性期内科病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 10：1（2交代勤務）
- 2) 看護師（常勤） 26名（内夜勤専属看護師1名）、（非常勤）1名  
看護補助者（常勤）4名、（非常勤）1名  
看護事務 1名

（令和6年3月31日現在）

### （2）特徴

昨年度より新型コロナウイルス（COVID-19）の受け入れ病棟として稼働し、今年度は5類感染症への移行に伴い、本来の急性期内科病棟として45床運用で再開。新型コロナウイルス患者の受け入れと並行して一般患者の受け入れも行い、院内感染予防の強化に努めた。看護ケアはもちろんのこと、感染対策面においてもウイルスの特性についてスタッフ一人ひとりが知識・技術の向上に努めており病棟内クラスターを起こすことなく対応した。また、新型コロナウイルス以外の急性期疾患への対応についても、約1年間のブランクがあり随時勉強会を開催し、医師との連携強化を図りながら、安全を第一に看護ケアの提供を行った。

当院に入院される新型コロナウイルス感染症患者、急性期疾患患者の特徴として、ともに高齢者が多く、感染を契機にADLが低下し望む場所に戻ることができないなど退院支援に難渋するケースが多くあった。MSWとも情報共有を密に行い施設から入院される患者は予め入院の期限の目処を決めて退院日を調整することで、回転率を上げ、スムーズに次の患者の受け入れにつなげることができた。

＜病棟目標＞

- 1) 院内クラスターを起こさない
- 2) 受け持ち看護師を中心とした退院支援の充実
- 3) 個別性に合わせた安全で質の高い看護を提供する

### （3）活動内容と評価

- 1) 全床コロナ病床からコロナ病床と急性期病床とを併せ持つ病棟機能への変遷の中、スタッフの感染予防への意識を維持できるよう、感染委員会を中心に各自がコロナ病棟で習得した感染予防の知識・技術を発揮できるよう取り組み、クラスターを起こすことなく病棟運営を行う事ができた。
- 2) 感染症治療・急性期治療終了後も退院が困難なケースが多く、早期に患者・家族と退院後の生活について意思の確認を行うように受け持ち看護師を中心に関わるように努めた。施設入所中の患者に関しては施設に戻る時期を入院時に決めておくことでスムーズな退院へと運ぶことができた。またケアミックス病院の強みを活かし療養病棟や地域包括ケア病棟と連携しライフステージに応じた退院支援を行った。

3) 院内研修・院外研修ともに、感染対策が優先されオンライン開催の学会や研修会が多くなり、各自の生活スタイルを考慮した自己研鑽の形をとり知識・技術の向上やケアの質の見直しを行った。また感染対策のための閉鎖的な環境でのケアは事故につながる事が予測されるため、日々の担当看護師は必ずペアを組んで看護を実践し、安全なケアの提供に努めた。

#### (4) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、感染症と一般患者の混在の中でのケアが必至となる。そのため一層の感染対策と最新の情報と知識を備えたスタッフ教育が必要となる。一般急性期病棟に病床機能を変更することで、当院特有の疾患と治療・看護について学びを深めていき質の高い看護の提供に努める。また、当院看護部の理念でもある「おもいやり・つよさ・あたたかさ」の意味をスタッフ各々が考え日々の看護実践につなげられるよう、職場環境を整えることが課題である。

## 南 3 階西病棟（地域包括ケア病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

1）看護体制	13：1（2交代勤務）	
2）看護職員	看護師	20名
	看護助手	8名
	看護事務	1名
	合計	29名

（令和6年3月31日現在）

### （2）特徴

地域包括ケア病棟は平成28年10月に開設され、一時コロナの影響で閉棟していたが、令和4年5月8日に再オープンした。

急性期治療を終えた後、在宅への退院を目指す患者さんにご利用いただく病棟であり、在宅介護中のご家族の休息や旅行などの目的でのレスパイト入院は定期的な利用者も増えている。患者さん、ご家族の意向を尊重し、安心して療養生活を送っていただけるように他職種と協働して入院前の日常生活に近づけるように支援している。

### （3）活動内容と評価

#### 【令和5年度病棟目標】

1. 他職種チームで患者の望む生活の場へ退院支援をする
2. 重大事故に繋がらないように転倒転落防止対策を実施する
3. 常に誠実にあたたかい看護を提供する

#### 【活動内容】

1. 他職種と共に患者の望む退院後の生活を把握し、必要な支援を検討する。
2. 受け持ち看護師が不在時にも継続看護ができるようにチームメンバーと情報の共有をする。
3. 入院（転入）時より患者の状況を把握し、転倒転落防止策を講じる。
4. 患者への接遇を意識し、患者への心配りを忘れず誠実に対応する。
5. 地域包括ケア病棟の基準を維持し、経営の視点を持って病床管理をする。

※在宅復帰率72.5%以上、看護必要度12%以上、病棟転棟率60%以内、緊急入院9人以上/3か月  
又は自宅からの緊急入院20%以上/3か月

#### 【評価】

新たなメンバーでの病棟再オープンであり、地域包括ケア病棟での経験がない者もいたが、多職種で連携を図り、患者が望む生活に近づけるために必要な支援は何か、患者の到達目標は何かを日々検

討して退院支援を行った。8月末からコロナによるクラスターの影響で患者の在宅復帰率は減少したが、9月以外は、平均91.5%の在宅復帰率であった。その他、病床管理として病棟転棟率平均38%、自宅からの緊急入院は平均6人/月、自宅からの入院の割合は平均48%、看護必要度は平均25%、病床利用率は平均60%、地域包括ケア病棟の加算要件である基準は満たしている。今年度は転倒転落件数が21件であり、患者の行動特性を理解し、事前の対策を検討したり、再発防止策を他職種を交えたカンファレンスで検討したりした。患者対応では、常に誠実に思いやりをもって接することができ、ご意見箱には3件よいご意見が入っていた。又、患者から受け持ち看護師や病棟宛に感謝のお手紙をいただく事もあった。その事を励みに、患者が安心した入院生活が送れるようお互い励まし合いながら継続看護を実施した。

#### (4) 今後の目標

地域包括ケア病棟での経験がない者も徐々に特徴を理解して、日々の退院調整を行った。今後は、受け持ち看護師を中心に多職種とも連携を図りながらできるだけ早期に患者が望む生活に向けての退院調整が行えるように、日々知識の向上を図り、家族との連携も積極的に図る。

## 南 3 階東病棟 (医療療養病棟)

### (1) 看護体制・スタッフ

1) 看護体制	20 : 1 (2 交代勤務)
2) 看護師 (常勤)	17名、(非常勤) 1名
准看護師 (常勤)	3名、(非常勤) 2名
看護補助者 (常勤)	7名、(非常勤) 4名
看護事務者	1名
合計	28名

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

### (2) 特徴

医療療養病棟 (療養病棟加算 1) で 50 床の病棟である。

当該病棟は、後期高齢者が 90% 前後、脳疾患やパーキンソン病、認知症、誤嚥性肺炎などで意識障害を伴う患者さんや拘縮を伴い臥床で過ごす患者さんが大半を占めている。

経腸栄養を必要とする患者さんが 70% 前後を占め、担送患者さんが 80~90% 以上である。個々の患者さんの疾患に応じたリハビリテーションの介入や看護ケアを実施し安心して療養していただける環境を提供している。

他病院からの転院受け入れや急性期病棟からの転棟受け入れをスムーズに行い、医師、リハビリ担当者、MSW、近隣の住宅介護関連の方々と連携を図りながら、転院および在宅支援に取り組んでいる。

### (3) 活動内容と評価

- 1) 食事介助、清潔の援助など日常生活の支援を通じて患者さん、家族の思いや不安を傾聴し気持ちに寄り添えるよう努力している。看護ケアの充実を図るためケアカンファレンスを通して、日々のケアを統一して看護の質の向上に繋げている。
- 2) 意識障害があり意思を伝えられない患者さんが多く、尊厳を守って関わっている。家族とのコミュニケーションを大切にしながら、医師、リハビリ、MSW と連携を図り、個々の患者さんに適した看護ケアの提供と退院支援を行っている。
- 3) 急性期病棟からの転棟や他病院からの転院受入においては、各病棟責任者や地域医療連携センターを通して、患者さんの情報提供してもらい個々に合わせて療養環境が整えられるよう工夫している。また、転棟後は家族と面談し、今後の方向性を確認して看護に活かしている。
- 4) 終末期の患者さんも多く、患者さん、家族の意思に寄り添い、その人らしいエンドオブライフを過していただけるよう、ACP を取り入れ全スタッフと情報共有を行い看護ケアに取り組んでいる。

#### (4) 今後の目標

個々の職員が目標管理に基づいて自己研鑽し、ケアカンファレンスを充実させ、看護ケアの質向上を目指し、患者さんに安心安全で快適な療養環境を提供できるよう努力する。他部門、他部署と連携し、スムーズな入退院調整を実践し、稼働率100%、医療区分（I・II）80%以上を維持目標として安定した病棟運営を行い病院運営に参画する。

## 北 3 階病棟（回復期リハビリテーション病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 15：1
- 2) 看護師 22名（うち夜勤専従看護師1名、アルバイト職員3名を含む）  
准看護師 2名（うちアルバイト職員1名を含む）  
看護補助者（常勤）3名

（令和6年3月31日現在）

### （2）特徴

病床数32床の回復期リハビリテーション病棟で、施設基準は回復期リハビリテーション病棟入院料3を届出している。

整形外科を中心に内科、外科など急性期治療が終了した後のリハビリテーションを集中的に行う病棟であり、整形外科では脊椎疾患の術後や骨折、関節障害など、内科では脳梗塞や認知症、心不全、肺炎後の廃用症候群などの疾患を持つ患者を受け入れている。

2023年度の病床稼働率は89.9%、平均在院日数は40.4日、在宅復帰率は89.3%である。

当病棟は急性期病棟と連携を取りながら、常にリハビリテーション科やMSWなど多職種とも連携し、患者が住み慣れた地域に帰れるよう、また早期に社会復帰ができるよう働きかけている。

#### ＜病棟目標＞

- 1) 堅実な経営への積極的な参加
- 2) 多職種連携、協働による積極的・計画的な退院支援
- 3) 業務改善及び人材育成による安心安全なエビデンスに基づく看護ケアの充実

### （3）活動内容と評価

- 1) 急性期治療が終了した患者さんが、スムーズに集中した効果的な機能訓練ができるように転入受け入れを行った。
- 2) リハビリテーション科との情報交換を行い、排泄行動訓練や病棟での自主訓練の内容など安全にリハビリテーションを実施できるよう患者指導の充実と環境整備に努めた。
- 3) リハビリテーション及びMSWと共に毎日カンファレンスを行い、リハビリテーションや退院支援の進行状況や問題点の抽出、今後の方針などを情報共有し、早期退院に繋がるよう取り組んだ。また、回復期リハビリテーション病棟の機能が十分に果たせるように、週1回、回復期対象患者カンファレンスを行い、多職種で情報共有を行うことで効率的なベッドコントロールに繋がった。
- 4) 三島圏域地域リハビリテーション看護連絡会に参加し、急性期・回復期・生活期のリハビリテーション関連病院と在宅機関との情報共有と連携を図った。

#### (4) 今後の目標

多職種との連携をより強化し、統一したケアを実施し計画的な退院調整を行う。患者さんが安心して、安全にリハビリテーションに臨むことができるよう、環境整備、教育を充実させる。

# 外 来

## (1) 看護体制・スタッフ

1) 看護体制	2 交代勤務	
2) 看護師	常勤	10名
	非常勤	9名
	看護補助者	2名
	合計	21名

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

外来では、通常診療及び専門外来・24時間救急診療・時間外診療に加え、内視鏡検査や処置介助の役割を担っている。

また、ケア・ミックス機能を持つ病院として地域のニーズに応え地域との連携を積極的に行い、外来来院時から退院後を見据えて支援体制を整えるよう努めている。

### 【診療科目】

- ・内科（循環器・消化器・糖尿病・脳神経・呼吸器・リウマチ膠原病・ペースメーカー）
- ・外科（一般消化器・乳腺）・整形外科・泌尿器科・脳神経外科・眼科・放射線科
- ・リハビリテーション科

### 【看護活動】

多様なニーズに対応できるように、一人ひとりに合わせたコミュニケーションを大切にした関わりを持つ。また、病院から暮らしの場へ、切れ目のない継続的な支援を行うため、多職種との連携、および地域との看看連携を図り患者・家族と関わる。

## (3) 活動内容

- 1) 医療と介護の両方を必要とする状態の患者が、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、個々の患者に応じた社会資源の提供、入院時から退院に向けての組織的な患者支援を他部署と連携をとり対応した。
- 2) 医師と連携した、救急受け入れ体制を確立し、二次救急病院としての役割を果たした。
- 3) 生活習慣予防や健康維持のための指導、慢性疾患患者への自己注射指導、内服などの自己管理支援を実施。また、糖尿病透析予防指導の強化と退院後の患者支援として慢性心不全療養指導の取り組みを開始した。
- 4) 個々のスタッフが院内・院外研修に参加し、各種学会認定資格を取得して自己啓発に努め、外来看護の質を高め安全で安心できる外来看護を提供した。

#### (4) 今後の目標

- 1) 専門性・特殊性の向上を目指し、看護外来を再構築する。
- 2) 社会資源に対する知識を深めて患者一人ひとりに合わせた社会資源を見極め、多職種で協働し、外来通院患者が地域でその人らしく暮らし続けられるよう支援する。
- 3) 救急外来における的確なトリアージを行い、スムーズに診療が進行するための管理を行う。
- 4) 新型コロナウイルス、インフルエンザなど感染症に対する対策を強化し、感染症患者が安全、安心な受診、入院ができるよう支援する。

## 手術室・中央材料室

### (1) スタッフ

看護師	7名
中材スタッフ	1名
合計	8名

(令和6年3月31日現在)

### (2) 特徴

手術室は整形外科、外科、泌尿器科、眼科が共同にて3室を使用

令和5年度の手術件数：504件

外科：89件 良性疾患と下部消化管悪性疾患の腹腔鏡手術

整形外科：283件 脊椎手術、外傷骨折手術

眼科：107件 白内障手術

泌尿器科：25件 経尿道的手術

### (3) 活動内容と評価

- ・「患者に安全で質の高い手術室看護を提供する」を目標として、日々進化する手術に対応するだけでは無く安全や、感染対策について情報共有を行い、問題の対策、評価を実施し日々の業務に反映している。
- ・手術室看護師としての役割・責任を自覚できるように、業務分担を通じて各自の役割を明確にしている。看護の分野だけではなく、経営参画としてコスト意識が持てるように医療材料、薬剤の管理業務を担うことで、スタッフ主体による物品管理の適正化を実現している。
- ・洗浄・滅菌業務については、大学と連携し、リリース体制の構築や院外研修に積極的に参加することで質の向上を図っている。

### (4) 今後の目標

手術の多様化に対応するために、手術室看護師として、迅速・的確に状況判断できる知識や技術に加え接遇などの態度面も高められるよう研鑽の環境を整える。

医師や臨床工学技士などの多職種者と連携し、患者が安心して手術を受けることができるよう、手術室の安全・感染対策の強化、および各部門、部署との連携を強化する。

# 血液浄化センター

## (1) スタッフ

血液浄化センター長 高井 朋聡 西尾 恭介

常勤看護師 5名

非常勤看護師 5名

看護補助員 2名

(令和6年3月31日現在)

## (2) 特徴

- ・血液浄化センターは、血液透析、血液透析濾過、持続緩徐式血液濾過療法、顆粒球吸着療法など行っている。
- ・血液透析では入院や外来患者の血液透析の透析中の状態観察や血液データの管理、食事指導や患者の日常生活の自己管理の援助を行っている。また、シャントPTAなどのブラットアクセスのインターベーション治療やバスキュラーアクセス管理も行っている。

## (3) 診療実績

シャントPTA 60件

血液透析 2473件

## (4) 今後の目標

- ・透析の専門職としての知識を高め、透析患者が円滑に透析生活を送れる様、質の高い看護を提供する。
- ・透析医療が地域医療に根ざした病院となるよう地域と連携を深め、患者のACPに関わっていける看護師の育成。
- ・患者の様々な生活様式に合わせた透析時間に対応するために、午後透析実施件数を増やし、患者が安心、安全に透析を実施できるよう環境を整備する。